

# 林英輔先生の退職に向けて

経済学部教授

牧野 晋

2009年1月20日、林英輔先生の本学での最終講義が執り行われた。会場となった生涯教育プラザ棟プラザホールには、大勢の学生や卒業生、教職員、バンダーの方々など多くの人が詰めかけた。林先生がこの3月で退職されることは前からわかっていた。しかし、私の中ではなかなかその実感がわいてこなかった。最終講義の時間が終わったとき、4月からのことを思い改めて寂しさがつのった。

最終講義のテーマは「インターネットの普及と運用技術」。最終講義とはいえ、この時間が学生向けの講義であることに配慮された林先生は、まず、コンピュータの歴史を交えた情報科学の基礎についてお話を始められた。やがて話題は、集中処理から分散処理への過程の中で登場するコンピュータネットワークへと続いていく。

最終講義を聴きながら、いろいろなことを思い出した。麗澤大学を去られる林先生に対して、単なる思い出話では場違いではあろうが、僭越ながらそれを記してみたい。

林先生に最初にお目にかかったのは、私が一橋大学情報処理センターに勤務していた90年代前半頃のことでありと記憶している。お目にかかったといっても、私はまだ一介の助手で、壇上で話をされる林先生を遠くから眺めていただけである。マイクを胸の前あたりの低い位置に持たれ、「林です」と、背筋を伸ばされ、少し低いトーンでお話を始められる様子は今と同じである。お話は、いつも実にうまく状況が概要されており、問題点が整理され、非常に説得力のあるものであったことを記憶している。この講演の妙は、いつまでたっても私などには真似ができない。

当時、国立大学情報処理センター協議会（現国立大学法人情報系センター協議会）総会という集まりがあった。これは、全国の国立大学にある総合情報処理センターと情報処理センター等が参加し、センターの直面する問題について情報交換及び意見交換を行い、その問題を解決することを目的に毎年開催されているものである。大学ごとに多少の違いはあるものの、予算規模もスタッフ数もほぼ同じ国立大学の情報処理センター等は、共通して抱える問題も多く意義のある会合であった。林先生は、その協議会でのリーダー的存在であり、私から見れば雲の上の存在だった。

ちょうどその頃、80年代後半から90年代前半にかけて、大学にも全学的な学内LAN整備が必要であるとの機運が高まっていた。今では信じられないことだが、どこの大学もまだそのようなネットワーク運用・管理を体験したことはなかったわけである。国立

大学情報処理センター協議会の中にも、ネットワークに関する問題を扱う分科会ができていた。そこでイニシアチブをとられていたのが、林先生と、当時、福井大学におられた岩原正吉先生（現金沢大学）である。あるとき、岩原先生がネットワーク部会の幹事を退任せねばならないという事態が生じた。林先生から後任を打診され、深く考えずに引き受けてしまった。「一橋大さんがやってくれるなら安心だ」と笑っておられた顔を今でも覚えている。大胆にもネットワーク部会幹事を引き受けたものの、私のできた仕事はせいぜい階層化された電子メールでの連絡体系を整備すること程度であったが、協議会総会で壇上の林先生から突然「牧野さん、何か連絡事項があるのですよね」と指名を受け、聴衆の前で説明する際には、経験のない私は足が震える思いであったことを懐かしく思い出す。

また、東京大学大型計算機センター（現東京大学情報基盤センター）を遠隔から使うユーザの集まりに、東京大学大型計算機センターネットワーク連絡協議会（東ワ連）という組織があった。これが後の TRAIN（東京地域アカデミックインターネットワーク）と呼ばれる地域ネットワークへと発展する。「N1 から IP へ」をキーワードに1992年に誕生した TRAIN へ接続を行うことで、周辺の大学はキャンパス LAN やインターネットワーキングに関する運用技術を蓄積していくことができた。山梨大学、東海大学に続き、3番目に TRAIN への接続を実現したのが麗澤大学である。この TRAIN 発足に関し、最も大きな役割を果たされたのが林先生である。先生は、TRAIN の他にも山梨地域インターネット協会（YACC）や山梨地域 IX 接続機構（Y-NIX）などの地域ネットワーク創設、各地の地域間相互接続プロジェクト（RIBB）における研究、及び、地域情報化推進に中心的な役割を果たされた。林先生がいらっしゃらなければ、日本の大学等におけるインターネット普及は確実に遅れていたのではなかろうか。

山梨大学を退官され、流通経済大学にいらっしゃった林先生を、国際産業情報学科ができるタイミングで本学に招聘した。近隣のライバル校ともいえるところから本学に来ていただけることになったのも、TRAIN で一緒に仕事をした大塚秀治教授や私のいる大学だったからと考えるのは手前味噌すぎるだろうか。とても有難くうれしかった。現在では、国際産業情報学科はなくなり、本学における情報教育も変化を求められている。情報システムの在り方も同様である。このような時期に、林先生が本学を去られてしまうのは残念でならず、大いに不安でもある。

本学が運用支援し柏地域における教育の情報化に一定の成果を示した柏インターネットユニオン（KIU, 1997～2008）は、前述の TRAIN を運用モデルにして構想されたものである。林先生には、KIU が特定非営利活動法人となってから副理事長をお願いした。KIU が行う活動の中に、学校 LAN を学生の手によって構築するネットデイ活動があった。ネットデイでは、林先生も作業着を着て陣頭指揮をとられていたのを思い出す。教育にもご熱心であった先生を象徴するお姿である。大学院の学生指導では、医療情報や地域情報化について、現場に足を運ばれて取材し、技術面とは別の側面からまとめあげていく。先生がこれまでに実践されてきた工学部的な研究方法とは違う、いわゆる文

科系的な研究手法をご自分から積極的に模索されていたように思う。

そんな林先生に本学にお越しいただいたことによる恩恵は計り知れない。その中でも特に感じているのが、文部科学省、総務省といった官界とのパイプである。教科書検定審議委員や大学入試センター問題作成委員等を歴任され、さらに、学校ネットワークについての議論、大学における情報教育に関する諸研究を通して情報教育推進に多大な貢献をされた林先生の元には、よく霞ヶ関方面の方々が訪れていた。プロジェクトリーダーをお願いしたいという話であろう。

例えば、総務省関東総合通信局の行う「ラスト・ワンマイル克服のための最適アクセスシステムの在り方とセキュリティに関する調査研究」というプロジェクトに、私も参加させていただいたことがある。館山市において、FWA（固定無線アクセス）を用いてネットワークを構築する実証実験である。この実験では、とあるホテルの屋上に無線設備を設置した。屋上といっても、ネットワーク設備の置かれる場所は、通常は人の入らないような場所である。給水塔のあるような場所と思ってもらえればよい。そのときは、屋上からさらに梯子を上っていくような高所にもかかわらず、率先して視察される林先生のパワーと探究心に圧倒された。

現在、本学にはJGN2plusのNOC（ネットワークオペレーションセンター）が置かれている。JGN2plusは、2004年3月まで運用されたJGN（研究開発用ギガビットネットワーク）、2008年3月までのJGN2を発展させた新たな超高速・高機能研究開発テストベッド・ネットワークとして、NICT（独立行政法人情報通信研究機構）が2008年4月から運用を開始している研究開発用ネットワーク環境である。ちなみに、千葉県内でNOCが置かれているのは本学のみである。通常、こうした高度なネットワーク環境は、国立を中心とした大学や研究機関に整備されることが多い。本学のような比較的小規模な、しかも文科系の私学にNOCが来ることは極めて珍しいケースといえる。林先生が本学におられなければおそらく実現することはなかったであろう。過去に、JGNを使って高精度動画配信実験をはじめとした様々な実践的研究が行なわれた。本学の学生も、環境構築を手伝うことや遠隔講義などを体験することで、机上の学習では得られないことをたくさん学べたのではないかと思う。これらすべてが、本学にJGN2が来たことの恩恵なのである。林先生は、その礎を築いてくださった。

システム構築や運用を行う我々は、「走りながら考える」ことを信条とするのはよいが、ともすると日々の雑務に追われ、そこで得られたさまざまな知見をまとめることを怠る。林先生は、そんな我々のために“運用技術”という新しい研究分野を提供してくださった。林先生のご尽力で情報処理学会の中にできた分散システム/インターネット運用技術研究会（DSM研究会、現IOT研究会）は、今では情報処理学会の中でも最大級の参加者を要する研究会となっている。私をはじめ、当時のネットワークの活動家の多くにとって育ての親とも言える存在が林先生なのである。

本学を退職されても研究はまだ続けられると伺っている。たとえ本学のキャンパスからは離れられたとしても、幸いにもネットワークは距離や時間を縮めてくれる。どこか

の場所で必ずお目にかかれるだろう。先生にはいつまでもお元気で研究活動を続けていただきたい。最終講義の最後にお話された、先生の研究上の信条、愚直であること、自律的であることは、今も耳に残っている。私は学生時代に林先生のご指導を受けたわけではない。しかし、間違いなく林先生は私の恩師である。



## 林 英輔教授 略歴等一覽

### 学 歴

- 1961年3月 東京都立大学理学部物理学科 卒業  
1963年3月 東京都立大学大学院理学研究科物理額専攻 修了(理学修士)

### 学 位

- 1971年10月 工学博士(名古屋大学大学院)  
1998年4月 山梨大学名誉教授

### 主要経歴

- 1963年4月～1963年7月 名古屋大学工学部 教務員  
1963年8月～1969年3月 名古屋大学工学部 助手  
1969年4月～1970年7月 山梨大学工学部 講師  
1970年8月～1981年1月 山梨大学工学部 助教授  
1981年2月～1998年3月 山梨大学工学部 教授  
1981年6月～1995年3月 山梨大学情報処理センター長  
1992年4月～1998年3月 山梨大学大学院工学研究科博士後期課程 担当  
1998年4月～2000年3月 流通経済大学流通情報学部 教授  
2000年4月～現在 麗澤大学国際経済学部 教授・情報システムセンター長  
2001年4月～現在 麗澤大学大学院国際経済研究科、政策管理専攻修士課程及び経済・政策管理専攻博士課程 担当

### 主要学外活動

- 1961年4月～2008年12月 日本物理学会会員  
1988年6月～現在 日本教育工学会会員  
1993年4月～現在 情報処理学会会員

1994年4月～1999年3月 情報処理学会分散システム運用技術研究会主査  
1994年4月～1995年3月 文部省学術審議会専門委員  
1999年6月～2007年3月 文部省教科用図書検定調査審議会委員  
2004年10月～現在 社会・経済システム学会会員  
2007年11月～現在 遠隔医療学会会員

## 林 英輔教授 主要業績一覧

### I 物性物理学関係

- 「二電子スピン Hamiltonian の Self-consistent な解の性質について」『物性論研究』 第2集第13巻 物性論研究 1958年3月
- “Dielectric Screening in Transition Metals”, *J.Phys.Soc.Japan*, Vol.26, No.8, 日本物理学会 1969年6月
- “Dielectric Screening in Transition Metals II Induced Spin Density in Nickel”, *J.Phys.Soc.Japan*, Vol.27, No.1, 日本物理学会 1969年7月
- 「ニッケル中の不純物によるスピン分極」『JAERI (日本原子力研究所研究報告)』1197号 日本原子力研究所 1970年8月
- “Self-consistent Band Calculation for Vanadium and Chromium”, *J.Phys.Soc.Japan*, Vol.29, No.6, 日本物理学会 1970年12月
- 「内挿法によるパラジウム金属の電子構造の計算」『山梨大学工学部研究報告』第23号、山梨大学工学部、1972年12月
- “Self-consistent Band Calculation for Iron in Paramagnetic and Ferromagnetic States”, *J.Phys.Soc.Japan*, Vol.34, No.2, 日本物理学会 1973年2月
- 「In<sub>1-x</sub>Gax のエネルギーバンドギャップの組成変化」『山梨大学工学部研究報告』第28号 山梨大学工学部 1975年12月
- “Distribution of induced spin density in dilute PdFe alloys”, *J.Phys.F: Metal Phys.*, Vol.10, The Institute of Phys., GB 1975年10月
- 「アンダーセン・サンプラーによって捕獲した大気浮遊粒子物質の幾何学的粒子径と空気動力学径との比較および粒子分布曲線の信頼性」『日本化学会誌』第12号 日本化学会
- 「Cu イオンを打ち込まれた LiNbO<sub>2</sub> の光学特性」『山梨大学工学部研究報告』第42号 山梨大学工学部 1991年12月
- [修士論文] 「Unrestricted Hartree-Fock 近似とそのリチウム原子ほの拡張」東京立大学大学院理学研究科 1963年3月
- [博士論文] 「遷移金属における誘電遮蔽および誘起スピン密度に関する理論的研究」名古屋大学大学院工学研究科 1971年10月

### II 数学及び数値解析関係

- 『工学基礎 微分方程式』共立出版 1979年10月
- 『数値計算』森北出版 1981年4月
- 『数値計算 第二版』森北出版 1984年9月
- 『数値計算の方法と BASIC プログラム』森北出版 1986年9月



「実数型データの累和における丸め誤差の影響」『山梨大学情報処理センター年報』第 1 号  
山梨大学情報処理センター 1984年 1 月

### Ⅲ 地域ネットワークの研究関連

「地域ネットワークの構築」研究会論文集『地域ネットワークの課題』東京大学大型計算機センター 1992年 7 月

「学内 LAN の整備と対外接続の実現」研究会論文集『地域ネットワークの課題』東京大学大型計算機センター 1992年 7 月

「インターネットへ向けた LAN の整備」『NEC コンピュータ SP 研究会論文集』第62号  
NEC コンピュータ研究会 1993年 3 月

「東京アカデミックネットワーク TRAN の現状」『東京大学大型計算機センターターニクス』第26号 東京大学大型計算機センター 1993年 5 月

「東京地域アカデミックネットワーク TRAIN」『東京大学大型計算機センターター年報』第23号 東京大学大型計算機センター 1993年9月

「東京地域アカデミックネットワーク」『IP Meeting '93 JPEG/IP』J-NIC 1993年11月

「日本の地域ネットワークの誕生」『情報処理』第35巻第 8 号 情報処理学会 1993年 8 月

「日本におけるインターネットワークと地域ネットワークの役割」『KARRN 協会講演会報告書』KARRN 協会 1995年 8 月

「キャンパス情報ネットワークの構築設計と管理運用システム」『情報処理学会分散システム運用技術研究グループ研究報告』第 2 号 情報処理学会分散システム運用技術研究グループ 1996年 4 月

「学校ネットワークの構築・管理用モデル」『情報処理学会シンポジウム論文集 IPSJSymposium』第99巻第10号 情報処理学会 1999年 7 月

「総論：安定したネットワークの構築、運用をめざして」『情報処理』第39巻第10号 情報処理学会 1998年10月

「ギガビットネットワークを用いた地域間相互接続の試み」『情報処理学会研究報告』99-DSM-15 情報処理学会 1999年 9 月

「ISDN による間欠 LAN 接続の問題点」『情報処理』第40巻第 1 号 情報処理学会 1999年11月

「地域ネットワークの新しい展開：地域ネットワークの目的と新しい展開——学術系から民間主導へ」『情報処理』第41巻第 1 号 情報処理学会 2000年 1 月

「CATV をアクセス網とした地域ネットワーク」『情報処理』第41巻第 1 号 情報処理学会 2000年 1 月

「学校ネットワーク運用における諸問題」『情報処理学会シンポジウムシリーズ』Vol.2000、No.2 情報処理学会 2000年 2 月

「学校内ネットワークにおける多機能ゲートウェイサーバーの実現」『情報処理学会研究報告』2000-DSM-20 情報処理学会 2000年12月

「VLAN 機能における情報基礎教育とその評価」『情報処理学会研究報告』2000-DSM-23 情報処理学会 2002年10月

「地域間相互接続実験プロジェクト」『情報処理学会会誌』第43巻第11号 情報処理学会 2002



年10月

“Chapter 4. Regional interconnection experiment project”, *Gigabit Network*, Eds. by T. Saito and H. Eaki, Ohmsha/IOS Press, 2003.

「地域基盤を利用した自律分散大学ネットワークシステム」『情報処理学会研究報告』2004-DSM-32 情報処理学会 2004年3月

「VPNを用いた学内無線LANサービス運用方式」『情報処理学会シンポジウムシリーズ』Vol. 2004、No.3 情報処理学会 2004年

「通信トラフィック監視システムの試作とバーストラフィックの検出」『情報処理学会研究報告』2004-DSM-34 情報処理学会 2004年7月

「条件不利地域におけるアクセスシステムの検討とネットワーク運用」『情報処理学会研究報告』2004-DSM-35 情報処理学会 2004年9月

「印刷管理システムの導入とその効果に関する一考察」『情報処理学会研究報告』2004-DSM-38 情報処理学会 2005年8月

“Quality improvement of IP network by highly accurate traffic measurement”, *Proceedings of the 3<sup>rd</sup> ANQ Congress and 19<sup>th</sup> Asia Quality Symposium*, ANQ Congress, Aisa. 2005.

「故郷の未来に何を描くか——IT戦略の展開を顧みて」VIEW POINT, No.7, CTC-Academic User Association 2007年3月

“Quality improvement of IP network by highly accurate traffic measurement”, *Journal of Quality Control*, Vol.14, No.4, Society of Quality Control 2006

#### Ⅳ 地域IX研究関連

「TRAIN-YamanashiのNOC運用と山梨インターネットYACC」研究会論文集『地域ネットワークの展開と県域ネットワーク』東京大学大型計算機センター 1994年11月

「地域内インターネット相互接続の技術と運用」『情報処理学会研究報告』96-DSM-1 情報処理学会 1996年5月

「地域IXの試み…山梨県のY-NIX構想」『IAJ NEWS』第4巻第1号 日本インターネット協会 1997年4月

「地域内IX技術の運用と地域情報化への適用」『分散システム運用技術シンポジウム'98論文集』情報処理学会 1998年2月

「地域IXを基礎とするネットワーク中継」『情報処理学会研究報告』98-DSM-10 情報処理学会 1998年7月

「地域IX（Y-NIX）の運用とネットワーク特性」『情報処理学会研究報告』99-DSM-13 情報処理学会 1999年5月

「地域IXを用いた通信環境改善手法の実現と評価」『情報処理学会論文誌』第41巻第12号 情報処理学会 2000年12月

「次世代インターネットエクステンションの技術動向」『情報処理学会会誌』第42巻第7号 情報処理学会 2001年7月

「MANを用いた地域商用IXの構築」『情報処理学会論文誌』第42巻第12号 情報処理学会 2001年12月

「地域間相互接続実験プロジェクト」『情報処理学会会誌』第43巻第11号 情報処理学会 2002

年11月

- 「BGP 情報を用いたアプリケーションレベルのマルチホームを実現するシステム構築」『情報処理学会分散システム・インターネット運用技術シンポジウム2003論文集』情報処理学会 2003年1月
- 「地域情報化推進とリスク管理 秋田地域 IX プロジェクト事業を中心に」『社会・経済システム』第265号 社会経済システム学会 2005年11月
- 「大学インターネット接続システムにおける地域 IX を用いたサーバアクセス手法とその評価」『情報処理学会論文誌』情報処理学会 2007年3月

## V 情報教育の研究関連

- 『教師のためのコンピュータ入門』森北出版 1990年7月
- 「国立大学情報処理センターの教育利用環境」『平成2年度情報処理教育研究集会報告集』文部省・京都大学 1991年4月
- 「情報処理教育におけるネットワークの活用」『平成3年度情報処理教育研究集会報告書』文部省・東京大学 1991年12月
- 「生涯教育の一環としての情報処理公開講座」『平成4年度情報処理教育研究集会報告書』文部省・北海道大学 1992年12月
- 「Pascal 言語教育における理解度の把握」『平成5年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・名古屋大学 1993年12月
- 「インターネットの教育利用環境と運用」『平成6年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・九州大学 1994年12月
- 「コンピュータリテラシーとインターネット」『平成7年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・大阪大学 1995年12月
- 「ネットワーク利用のための情報リテラシー」『平成8年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・名古屋工業大学 1996年12月
- 「オンライン教材ベースの運用」『平成9年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・室蘭工業大学 1997年10月
- 「有害情報制御の一考察」『平成10年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・九州工業大学 1998年10月
- 「ISDN による間欠 LAN 接続の問題点」『平成11年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・東北大学 1999年11月
- 「ネットワーク教育へのライセンストレーニングプログラムの適用」『平成11年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部省・東北大学 1999年11月
- 「システム利用マナー教育のためのアクセス管理」『情報処理学会研究報告』2001-DSM-22 情報処理学会 2001年7月
- 「情報システムの不適切利用者に対する情報倫理教育」『平成13年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・和歌山大学 2001年10月
- 「Windows 多重ログオン抑止の一方策」『平成13年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・和歌山大学 2001年10月
- 「大学生の印刷行動と印刷枚数制限方式の一考察」『平成13年度情報処理教育研究集会講演論文集』

- 集』文部科学省・和歌山大学 2001年10月
- 「学校教育場面における授業環境に関する一考察」『平成13年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・和歌山大学 2001年10月
- 「情報システムのセキュリティ対策と管理」『平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・東京大学 2002年10月
- 「VPN 接続サービス運用と課題」『平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・東京大学 2002年10月
- 「利用者サポート窓口の運用と評価」『平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・東京大学 2002年10月
- 「麗澤大学における情報基礎教育とその評価」『平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・東京大学 2002年10月
- 「情報システムの不適切利用者に対する情報倫理教育 2」『平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・北海道大学 2003年11月
- 「VPN を用いた学内無線 LAN サービスの運用方式」『平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・北海道大学 2003年11月
- 「実践を伴ったネットワーク応用教育の試み」『平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・北海道大学 2003年11月
- 「短期大学情報文化学科における情報基礎教育」『平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・北海道大学 2003年11月
- 「印刷管理システムの運用と評価」『平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・北海道大学 2003年11月
- 「基礎教育における入学前実践の影響：4年制移行で変わったもの」『平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・名古屋大学 2004年12月
- 「カメラ付携帯電話に対する Web 掲示システムの試作」『平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・名古屋大学 2004年12月
- 「印刷管理システムの導入による印刷行動の変化」『平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・名古屋大学 2004年12月
- 「麗澤大学における情報教育と学生の動向」『平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・名古屋大学 2004年12月
- 「情報システムの不適切利用者の情報倫理教育 3」『平成16年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・名古屋大学 2004年12月
- 「基礎教育における入学前教育実践の影響」『平成17年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・九州大学・他 2005年11月
- 「コンピュータシステム利用者支援に関する一考察」『平成17年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・九州大学・他 2005年11月
- 「実践と伴ったネットワーク応用教育の試み」『平成17年度情報処理教育研究集会講演論文集』文部科学省・九州大学・他
- 「教科情報の過去と未来」『IPSJ Symposium series』Vol.2006、No.8 情報処理学会 2006年8月
- 「情報システムの不適切利用者への教育指導の現状」『平成18年度情報処理教育研究集会講演論文集』広島大学・文部科学省 2006年11月

- 「新教育課程によって入学者の初期条件はどう変わったか」『平成18年度情報教育研究集会講演論文集』広島大学・文部科学省 2006年11月
- 「大学キャンパス LAN への検疫ネットワークの適用」『平成18年度情報教育研究集会講演論文集』広島大学・文部科学省 2006年11月
- 「大学における利用者支援窓口の運用」『平成18年度情報教育研究集会講演論文集』広島大学・文部科学省 2006年11月
- 「ネットワーク利用環境提供システムの構築」『平成19年度情報教育研究集会講演論文集』大阪大学・文部科学省・他 2007年11月
- 「Windows PC の多重ログオン検知」『平成19年度情報教育研究集会講演論文集』大阪大学・文部科学省・他 2007年11月
- 「2007年度入学者の教科「情報」に対する否定的感想の増加」『平成19年度情報教育研究集会講演論文集』大阪大学・文部科学省・他 2007年11月
- 「教科『情報』の入学時初期条件の推移」『平成20年度情報教育研究集会講演論文集』九州工業大学・文部科学省 2008年12月